

日本ウニコット協会 Newsletter

Vol.8 2022

目次

リレーコラム「私たちの生きること」(増尾 徳行)	1
リレーコラム「ウニコット!!」(松木 邦裕)	3
ウニコット・フォーラム 2022 「「環境」について考える」	5
「ウニコット研究」投稿募集	9
協会からのお知らせ	12
編集後記	14

リレーコラム

私たちの生きること

上本町心理臨床オフィス 増尾 徳行

Winnicott が移行現象ということばを用いたのは、プラトンのような発想をしなかったからだろう、と思う。つまり、事物のなかに意味あるいは本質があるとは捉えなかった、ということである。それゆえ、その相似形である「遊びや連想の無意識の意味を明らかにする」形式の分析に異を唱えた。そうではなく、遊ぶことそのものに意義がある、と彼は主張したのである。事物の意味を捉えようとしていた私たちは、自己が事物をどう経験するか、目を向けることになる。彼はこの領野を、きわめて詩的に表現した。

私はつぎのことを提起している。すなわち人間の発達には客観性や知覚性が生じる前の段階がある、ということである。そうした理論上の始まりにあっては、赤ん坊は主観的・概念的の世界に生きている、と言えるだろう。そのはじまりの状態から客観的知覚ができるところへの変化は、生来的・遺伝的プロセスのみによるのではない。わずかに環境が加わる必要がある。そこには**依存から独立へ向かう個々の旅路という広大な主題がある。**

この概念と知覚の裂け目は、研究の豊かな素材を提供する。・・・

(Winnicott, 1971；強調は私が加えた)

移行現象は、人生という旅路そのものである。経験はまさに、私たちそれぞれの歴史をかたちづくるからである。ここから見る精神分析は、ある二人が一時期人生をともにすることにすぎない、とも言える。とはいえ、そこに生じる重なりは、双方の人生全体に波及するだろう。

『遊ぶことと現実』は、主張の全体を極限まで濃縮したこの Tailpiece で終える。著作の読み手は、ここにいたって気づく。彼の主張は、章ごとにさまざまな色調を見せるのだが、それらはプリズムによる分散であり、光跡をたどるうちにこの一点へ収斂するのである。彼が移行現象を 20 年にわたって研究したのは、ここにある概念と知覚の裂け目を認識したからである。

私たちはこの世界へ、はじめに赤ん坊として登場する。養育者による世話があれば、赤ん坊は主観的・概念的の世界を持つにいたる。その周囲には、客観的に知覚しうる世界が広がる。赤ん坊は、どうやってその異世界を知るのだろうか。

彼の研究は、移行現象を見いだした。それは主観／概念と客観／知覚、両方の性質を持つ。ゆえに二つの世界に橋を渡している、との印象を私たちに与える。ここはのちに、文化的経験や創造的に遊ぶことの領域として、まさに私たちの生きる場となっていく。個々に独自のものでありながら、個人史にとどまらず、人類の歴史をも織りなす。それはひと目には捉えきれないほど、広大である。

しかし改めて気づくことがある。私たちがここに生きているということは、主観と客観、概念と知覚の裂け目は埋まらないままにある、ということである。その領野が広大無辺であることは、裂け目を埋めていることを意味しない。むしろその裂け目が埋まり得ないことを、逆説的に明らかにしている。

彼はこのことに自覚的だった。だから強い口調でこう言う。

移行対象については、つぎの質問を決してしない、と私たちと赤ん坊が取り決めることと言いうるだろう。「これはあなたが思い描いたの？ それとも外から示されたの？」大切なのは、この点についての解決を望まないことである。このような質問すら、作り出されるべきでない。

(Winnicott, 1971；強調は彼がしている)

その問いは、私たちの生きることを根本から脅かす。いにしえより連綿と紡いできた人類の営み総体を瞬時に消し去るために、私たちはみな赤ん坊と、この取り決めに交わさねばならない。

かろうじて、私たちの生きること、そして裂け目は保たれる。私たちは事物の本質どころか、事物にすら到達しない。透徹した彼の目は、私たちの人生全体が錯覚であることを、捉えたのである。

リレーコラム

ウイニコット!!

日本精神分析協会・ちはや ACT クリニック 松木 邦裕

次のエピソードは、メキシコシティの Jani Santamaria とボストンの Howard Levine が主催するオンラインの「W.R. Bion Seminar」で Joseph Aguayo(ロサンジェルス精神分析協会)が語っていたものです。

ある日の午後、Bion は自宅に Rosenfeld を招いてランチをともにしました。食事をしながら彼ら二人は話に熱中し、処(ところ)を庭に移して話を続けていました。

ところがロンドンではよく起こることですが、雨が降り始めました。しかし二人はそれには頓着せず、そのまま庭で熱心に話を続けていました。次第に雨は強くなってきました。Bion の妻 Francesca は家にいましたが、二人が何やら熱心に話し続け、雨に濡れてもやめる気配がないのを心配し始めました。そして雨もかなりの強さになったので、離れたところにいる彼らに大声で家に戻るように伝えたのでした。それから二人でいったい何を話しているのか尋ねました。

大声で二人が答えました:「Winnicott!!」。

このエピソードには多くの方が驚かれるのではないのでしょうか。

英国クライニアンは伝統的に Winnicott の業績を無視します。Segal は明らかに Winnicott に敵対していましたし、実際、Bion は Winnicott その人や彼の業績にはほとんど触れていません。Rosenfeld も同様です。しかしながら、このエピソードが 1950 年代のことだったのか、60 年代だったのかは私には定かではありませんが、彼らが共通に語るに十分値する Winnicott がいたのです。

それはどんな Winnicott なのでしょう。これからは私の推測です。

Bion と Rosenfeld に共通し Winnicott に関連することとしたら、それは「精神病の精神分析」でしょう。すなわち精神的に精神病をどう理解し、どうアプローチするかです。そして精神分析であるなら、それには心的発達論での乳幼児期最早期のところがモデルに置かれます。

そうすると、Klein の迫害不安と妄想-分裂ポジションを思い浮かべられる方も多いかもしれませんが、遅くとも 60 年代には Winnicott と Bion はもっと原初的なところでの不安を想定し始めていました。

それは Winnicott 的に言うと、自己のほんとうの中核を傷つけてしまう消滅的な外傷に基づく「考えることのできない不安」unthinkable anxiety であり、人生の始めに起こっていたが、それゆえその経験がここに登録されていない「破綻」breakdown の怖れでした。Bion においては「幻覚症」と表現された「名前を欠く激しい恐怖」nameless dread であり、「破局」catastrophe でした。すなわち二人は、それらの不安や体験が置かれているところの非表象領域を想定していたのです。

それから 60 年ほどを経過して、私たちはようやく Winnicott と Bion が注視、熟考してきたところ行き着いたのです。現代精神分析は、非表象領域の体験や不安を精神分析場面で取り扱うことの意義を吟味し始めています。たとえば重症 PTSD や自閉症性障害を真に理解し分析的に対応するためには、ところの非表象領域の探究が不可欠です。

これからも Winnicott と Bion、そして精神分析の場から学ぶことはたくさんあります。

ウニコット・フォーラム 2022

「環境」について考える

ウニコットは、人のところが環境とのかかわりのなかで発達する、と考えました。つまり彼の情緒発達理論は、対象との関係で捉えるものです。それらを概念化したものとして、錯覚-脱錯覚の理論、抱えること、ほどよさといったことばを私たちは知っています。この「環境」について、考えてみたいと思いました。たび重なる災害、Covid-19、ロシアのウクライナ侵攻。私たちは今、急激な脱錯覚、抱えられないこと、ほどよくないこと、のなかを生きています。今改めてこの概念を考えると、これまで私たちが思っていたようなウニコットの考えに、異なる側面を見出せそうな気がするのです。みなさまにもぜひその議論に加わってくださるよう、お願いいたします。

ウニコット・フォーラム 2022 は、2022 年 11 月 20 日（日）に、大阪市内のたかつガーデン（定員 20 名）とオンライン（定員 200 名）で開催します。大会のテーマは、「『環境』について考える」にしました。大会企画シンポジウム・特別講演は会場+オンラインのハイブリッドで、会員企画シンポジウムはオンラインで、事例検討は会場で開く予定です。1 ヶ月前の Covid-19 の感染状況を見て、会場開催はできないと判断した場合には、すべてオンライン開催とし、事例検討は中止します。また本大会では上に挙げたとおり、新たな試みとして、会員の企画によるオンラインシンポジウムを募集します。概要については、下記をご覧ください。皆さまのご応募・ご参加をお待ちしております。

記

日時：2022 年 11 月 20 日（日）10:00~17:50

会場：オンライン（定員 200 名）

+ たかつガーデン（大阪府大阪市天王寺区東高津町 7-11）（定員 20 名）

参加資格：守秘義務のある専門家に限ります

参加費：会員 ¥5,000 / 非会員 ¥6,000 / 大学院生 ¥3,000

会場費：3,000 円（現地開催の際に、会場に参加される方にかかる費用です）

申込方法：以下の Google フォームからご登録いただきます。

<https://forms.gle/9aDkEQG5Utnv9KfB7>

申込締切：2022 年 11 月 13 日（日）

お問い合わせ：winnicottforum@gmail.com

参加可能な方に受諾のご連絡と参加費の振込先をメールいたします。

※お問い合わせ、その他ご連絡は基本的にメールで行います

※会場開催とオンライン開催それぞれについて、日本臨床心理士資格認定協会の定める資格更新ポイントを申請する予定です

プログラム

10:00~10:05 開会のあいさつ

10:05~12:30 **大会企画シンポジウム「環境」について考える**（オンライン+会場）

シンポジスト

中村 留貴子（千駄ヶ谷心理センター）

西依 康（自治医科大学 精神科/精神腫瘍科）

増尾 徳行（ひょうごこころの医療センター/上本町心理臨床オフィス）

指定討論：生地 新（まめの木クリニック）

司会：石田 拓也（追手門学院大学）

星野 修一（京都大学大学院博士後期課程）

12:30~12:45 総会

12:45~13:30 休憩

13:45~15:00 **特別講演 「環境」とシステム論**（オンライン+会場）

館 直彦（たちメンタルクリニック）

司会：日下 紀子（ノートルダム清心女子大学）

15:00~15:15 休憩

15:15~17:45 **会員企画シンポジウム**（オンラインのみ※後日アーカイブ配信あり）

事例検討（会場のみ）

事例提供：片山 貴美子（そうしん堂レディスメンタルクリニック）

助言：中村 留貴子

西依 康

司会：渡部 京太（特定医療法人群馬会 群馬病院）

増尾 徳行

17:45~17:50 閉会のあいさつ

ウニコット・フォーラム 2022
 会員企画シンポジウム 募集要項

ウニコット・フォーラム 2022 では、新たな試みとして、会員の企画によるシンポジウムを募集します。概要は、つぎのとおりです。皆さまのご応募をお待ちしております。

概要

会員企画シンポジウムは、ひとつの主題について数人のシンポジストが異なる視点から発表をしたあと、聴衆との質疑を行ないます。主題は心理療法（個人・集団等）、応用的実践、文化・芸術論など、どのようなものでもかまいませんが、精神分析に根ざした議論をしていただくことを基本とします。同時時間帯に、最大 2 つの企画を並行して開催する予定です。

10:00	12:30	12:45	13:30	15:00	15:15	17:45
大会企画シンポジウム	総会	休憩	特別講演	休憩	会員企画シンポジウム1	
					会員企画シンポジウム2	
					事例検討	

時間は、2 時間 30 分です。企画者には、討論する主題、登壇者（発表、指定討論、司会など）、当日のシンポジウム運営をコーディネートしていただくことになります。

また登壇者は、協会会員であることを要件とします。非会員のかたが登壇される場合は、企画応募時に入会申し込みも同時に行なってください。

応募と採否について

応募はメールで受け付けます。添付例を参考に、以下の内容を記してください。

- 1 企画シンポジウムのタイトル
- 2 企画者・登壇者の a 氏名, b フリガナ, c 所属, d シンポジウムでの役割
- 3 企画趣旨（800 字程度）と発表者の抄録（各 800 字程度）

発表者の抄録には、3～5 語のキーワードを付してください。

（非会員の登壇者がいる場合、別添で入会申込書）

応募原稿はワードプロセッサを用いて、Word ファイルを作成してください。ファイルは電子メールに添付して、winnicottforum@gmail.com までお送りください。件名は「会員企画シンポジウム申し込み」としてください。応募締め切りは、**2022 年 8 月 31 日（水）**とします。採否については、2022 年 9 月 30 日（金）までに応募されたメールアドレスへお送りします。

どうぞよろしくお願いいたします。

(応募例)

- ・ シンポジウムタイトル

- ・ 企画 ○○ (マルマル) ○○大学
司会 △△ (サンカクサンカク) △△病院
発表 □□ (シカクシカク) □□クリニック
発表 ☆☆ (ホシホシ) ☆☆大学
発表 ●● (クロマル) ●●病院
指定討論 ▲▲ (クロサンカク) ▲▲クリニック

・ 趣旨

趣旨や概要, 進行などについて 800 字程度で記してください。

・ 抄録

タイトル 1

□□ (シカクシカク) □□クリニック

キーワード:

抄録を 800 字程度で記してください。

タイトル 2

☆☆ (ホシホシ) ☆☆大学

キーワード:

抄録を 800 字程度で記してください。

タイトル 3

●● (クロマル) ●●病院

キーワード:

抄録を 800 字程度で記してください。

(指定討論演者の抄録は, 必須ではありません。)

「ウニコット研究」投稿募集

「ウニコット研究」投稿募集

この度、当会では、日本ウニコット協会雑誌「ウニコット研究」を発刊いたします。投稿論文の募集も開始いたしますので、下記の投稿規定をご参照ください。なお、投稿規定は協会 HP にも掲載しております。会員の先生方からの積極的な投稿をお待ちしております。

日本ウィニコット協会「ウィニコット研究」投稿規定

1. 投稿資格

投稿は原則として、日本ウィニコット協会正会員、顧問に限る。

2. 投稿条件

論文内容は未刊行のものに限る。

3. 採否

論文の採否、掲載順などは編集委員会が決定する。

4. カテゴリー

投稿する論文のカテゴリーは以下の通りである。

論考：ウィニコットや独立学派精神分析の実践や芸術，その関連領域における，理論，概念，歴史や文化的背景などについての著者独自の見解を提起する論考。12,000字以内を目安とする。

総説：特定の主題についての学問的動向を遠望し，筆者独自の論考を示した論文。12,000から28,000字以内を目安とする。

原著：個人・集団の心理療法や心理検査による臨床研究，観察研究，質的研究，実証研究，また文化や芸術領域等における論考であり，独立学派精神分析とその関連領域についての著者独自の主張が提起されている論考。12,000字以内を目安とする。

著者は投稿の際，掲載を希望するカテゴリーを表題の前に明記すること。

5. 図表

図表，写真などは図1・表1と順序を付け，それぞれに和文で題をつける。文字数の制限に図表は含まない。

6. 原稿の作成

原稿はワードプロセッサを用いて作成する。A4用紙に横書き，40字×40行を目安に原稿を作成すること。

7. 外国語の表記

人名，地名等の固有名詞は原則として原語を用いる。

(例：Winnicott, D, W / Freud, S / London)

8. 引用

文献の主著者のアルファベット順に番号を付し、本文中にその番号を適当な個所に付す。肩付きで (1) (2) のように記載する。本文の末尾に「文献」という表題にて文献リストを付し、文献を番号順に記載する。各文献は、雑誌に掲載された文献については、著者名、発行年、題名、誌名、巻、ページの順、単行本の場合は、著者名、発行年、書名、出版社名、発行地の順に掲載する。

(例)

(1) 妙木浩之 (2021) : Laplanche の「謎のメッセージ」. 精神分析研究 65 (4) , 369-375

(2) Bollas, C. (1979) : The Transformational Object. International Journal of Psychoanalysis 60, 97-107

(3) Patrick Mahony. (1987) : Freud as a Writer. Yale University Press. 北山修監訳 (1996) : フロイトの書き方. 誠信書房, 東京

(4) Winnicott, D. W. (1968) : The use of an object and relating through cross identification. In Winnicott, D. W. (1971) : Playing and Reality. Basic Books, New York. 橋本雅雄訳(1979) : 遊ぶことと現実. 岩崎学術出版社, 東京

9. 表題等

表題、著者名、著者所属、5語以内のキーワードをつける。

10. 要約

原著については、本文はじめに 800 字程度の邦文要旨を付す。

11. プライバシー

クライアントのプライバシーに十分配慮せねばならない。臨床研究においては、その情報は修飾することとし、経過の詳細等よりも主張の独自性を重視する。

12. 投稿の方法

投稿の際は、論文の電子データを（原則として Microsoft の Word 形式）を電子メールの添付ファイルとして、日本ウイニコット協会事務局（jwasecretariat@gmail.com）宛てに送信する。

協会からのお知らせ

研修会・協会共催事業のご案内について

日本ウニコット協会では、ウニコットおよび独立学派に関する研修会や、協会共催事業を会員の皆さま宛てにご案内させていただいています。

つきましては、会員の先生方が主催されている研修会などで、会員の皆さまにご案内したい内容がございましたら、協会事務局宛てにメール【jwasecretariat@gmail.com】にてご連絡ください。理事会にて審議の上、承認された場合、協会ホームページの「研修会情報」への掲載と、メーリングリストでの配信をさせていただきます。

なお、メールの件名を「研修会（協会共催事業）掲載希望」とし、本文に研修会の詳細をご記入ください。フライヤーの画像データや PDF などがあれば、そちらも添付していただければ掲載いたします。

協会からのお知らせ

年会費納入のお願い

2022年度（2022年4月～2023年3月）の日本ウニコット協会の年会費の納入についてご案内いたします。納入会費は下記のとおりですので、まだお振込みでない方は、下記口座に振込をお願いいたします。

記

○年会費：5,000円

○納入方法：銀行振込（送金手数料は自己負担でお願いします）

振込先：りそな銀行上六支店

口座番号：普通口座 0370321

口座名義：日本ウニコット協会

*必ずお名前をご明記ください。

*職場名義での振込み等される方は、ご一報くださるようお願いいたします。

ご不明な点がございましたら、協会事務局までご連絡ください。

編集後記

先日、協会雑誌『ウニコット研究』が創刊しましたね。創刊号では、2019年度と2020年度のウニコット・フォーラムのシンポジウムと講演の内容が特集として掲載されています。協会HPの会員専用ページからご覧いただけます。先生方からの投稿をお待ちしております。

リレーコラムの中で、松木先生が、BionとRosenfeldが雨の中 Winnicott について語っていたと書いていらっしゃいました。彼らはどんな Winnicott を語っていたのでしょうか？今年度のウニコット・フォーラムでは、会員企画シンポジウムも行います。BionとRosenfeldよろしく、日頃先生方が考えていらっしゃることをシェアしていただければ、嬉しく思います。締め切りは8月末ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

酷暑とコロナにへこたれないよう、手洗いうがい、水分補給で乗り切りましょう。

(奥田久紗子)

2022年8月16日発行

日本ウニコット協会 Newsletter vol.8

編集：石田 拓也

奥田 久紗子

発行：日本ウニコット協会

日本ウニコット協会事務局

e-mail：jwasecretariat@gmail.com

HP：https://winnicottforum.com

〒543-0001

大阪府大阪市天王寺区上本町6丁目6-26 上六光陽ビル601

たちメンタルクリニック・上本町心理臨床オフィス内
